

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 HAHAHA

1. 事業名称

外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備

2. 事業の目的

外国にルーツをもつ子どもの困り感、家庭の困り感、支援者の困り感を知り、その改善のために、関係機関と連携しながら環境整備をする。

3. 事業内容の概要

日本語・学習支援のための環境整備として指導者のスキルアップ、取り巻く環境の整備として通訳・関係機関のスタッフの連携・スキルアップを目指す。

具体的には、困り感に気づく方法、対処の方法などを学ぶために次のような講座を設けた:「SSW的視点とケース会議」「フォトストーリーワークショップ」「実践者の報告」「二言語の対話型段階的読み学習の実践」など。また、生活者としての外国人でもある子どもの保護者たちの気持ちをじっくり日本語で聞く機会を設け、日本人との心のふれあいをすることにより、より地域に愛着をもって暮らしてもらうことを目指す。彼らの気持ちを映像作品としてまとめ、西尾住民に披露する機会を設けた。これにより、一般市民に生活者として住んでいる外国人の現状、内面を知ってもらい、外国人住民に対して西尾市が現在行っていること、課題などについても知ってもらう機会とする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年7月21日 13:30~16:30	3時間	福祉センター	佐々木 千里 櫻井 千穂 川上 貴美恵 岩瀬 靖奈 菊池 寛子	H24年度の取組の検討	これまでの取組のふりかえり、本年度の目指すところ、対象者、会場の検討、後援、共催の検討、
2	平成24年12月1日 16:30~19:30	3時間	福祉センター	佐々木 千里 櫻井 千穂 川上 貴美恵 岩瀬 靖奈 菊池 寛子	中間ふりかえり	それぞれの取組の様子、後半の微調整、本年度の取組の落とし先
3	平成24年3月20日 13:30~16:30	3時間	福祉センター	佐々木 千里 櫻井 千穂 川上 貴美恵 岩瀬 靖奈 菊池 寛子	H24年度の取組のふりかえり及び来年度の取組について	これまでの4年間の取組のふりかえり、成果について、来年度の取組について

5. 取組についての報告

○取組1:連携体制づくりのための講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

国籍にかかわらず、外国にルーツをもつ子どもたちもいじめ、不登校、暴力行為、非行等の問題行動がみられる。これらの状況背景には児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の環境問題も複雑に絡み合っている。そこで、児童生徒の環境に働きかけることで、本人負担軽減を試みたり、周囲から本人への一層の支援が行われるよう努めたりすることが重要になってきている。子どもの学校生活全般に関する情報、家庭環境・生活に関する情報、発達・心理・疾病に関する情報など、本来は子どもに関わる様々な情報を集めて、その背景や原因を見極め(アセスメント)、解決に向けた目標設定と役割分担を内容とする具体的な手立てを考える(プランニング)が必要である。それらは関係者が集まって行うケース会議で検討されると合理的と思われる。この講座では、ワークショップ形式で、ケース会議に必要な基礎知識を体験的に学ぶことを目標とする。

(2) 取組内容

外国にルーツをもつ子どもたちやその保護者たちの状況を事例を通して知る。また関わっている人たちの課題を知る。そして、なぜ連携が必要なのか、ケース会議ワークショップを通して西尾市ではどのような連携体制づくりができるのか検討する。

第1回 受講生ニーズ分析、ケース会議とは

第2回 ケース会議①

第3回 多文化多言語環境に育つ子どものことばとアイデンティティ

第4回 ケース会議②

第5回 西尾市多文化子育て支援事業-プレスクールプログラムを中心に-

第6回 ケース会議

(3) 対象者

市役所各課職員、通訳、多文化共生教室「きぼう」スタッフ、教職員、
早期適応教室指導員、ほか関係者

(4) 参加者の募集方法

各小中学校、市役所内、関係機関、チラシ配布

(5) 参加者の総数 35 人

(出身・国籍別内訳 日本 26人, ブラジル 6人, ボリビア 1人, ベトナム 2人)

(6) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 6 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名
1	平成24年8月8日 17:30～19:30	2時間	福祉センター	11人	日本人(6人)、 ブラジル人(4人)、 ポリアリア人(1人)	ニーズ分析、ケース会議とは	受講生のニーズ分析、スクールソーシャルワーク的視点について学ぶ。	1名	佐々木 千里
2	平成24年9月27日 15:00～17:00	2時間	市役所	18人	日本人(12人)、 ブラジル人(6人)	ケース会議①	アセスメントとプランニング、事例からカンファレンスシートに情報を書き込んでいく。	1名	佐々木 千里
3	平成24年10月21日 10:00～12:00	2時間	福祉センター	14人	日本人(12人)、 ベトナム人(2人)	多文化多言語環境に育つ子どものことばとアイデンティティ	母語の大切さ、質の良い言語環境の確保について学ぶ。	1名	櫻井 千穂
4	平成24年11月29日 15:00～17:00	2時間	市役所	18人	日本人(15人)、 ブラジル人(3人)	ケース会議②	事例検討を通して、ストレンクス、長期目標、短期目標、アセスメント、プランニングの重要性について学ぶ。	1名	佐々木 千里
5	平成24年12月13日 15:00～17:00	2時間	市役所	16人	日本人(14人)、 ブラジル人(2人)	西尾市多文化子育て支援事業～プレスクールプログラムを中心に	保護者にとつたアンケートから見えるもの、多文化多言語家庭のための育児マニュアルの必要性	1名	川上 貴美恵
6	平成25年1月24日 15:00～17:00	2時間	市役所	17人	日本人(13人)、 ブラジル人(4人)	ケース会議③	よりよい環境をつくるケース会議とは、つながる、協働できる相手を知る、相手の役割を知る、チームワークによりできることを学ぶ。	1名	佐々木 千里

<チラシ>

平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム



児童生徒のいじめ、不登校、暴力行為、非行等の問題行動は、依然甚慮すべき状況にあります。児童生徒の問題行動等の状況背景には、児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題も複雑に絡み合っております。問題行動を起こす環境要因、例えば家庭内の問題、児童虐待、友人との不和など取り巻く状況に着目し、児童生徒の環境に働きかけることで、本人負担軽減を試みたり、周囲から本人への一層の支援が行われるよう努めることが重要になってきています。そんな環境である児童生徒の家庭は、市役所各課やいるような機関でお世話になっていることが少なくありません。しかし、それぞれの部署では担当者が断片的な情報しか持っていないことも考えられます。子どもの学校生活全般に関する情報、家庭環境・生活に関する情報、発達・心理・疾病に関する情報など、本来は子どもに関わる様々な情報を集めて、その背景や原因を見極め（アセスメント）、解決に向けた目標設定と役割分担を内容とする具体的な手立てを考える（プランニング）が必要だと考えます。また、それらは関係者が集まって行うケース会議で検討されると合理的です。この講座では、ワークショップ形式で、ケース会議に必要な基礎知識を体験的に学びます。

日時：平成24年8月～平成25年2月（土） 計6回シリーズ

場所：市役所内もしくは

総合福祉センター（西尾市花ノ木町2丁目1番地）

対象：市役所各種職員、通訳、多文化共生教室きぼうスタッフ、

教職員、早期対応教室指導員、ほか関係者

費用：なし 定員：30名ほど

主催：HAHAHA（代表 菊池寛子 西尾市早期対応教室指導員）

電話 080-2626-1056

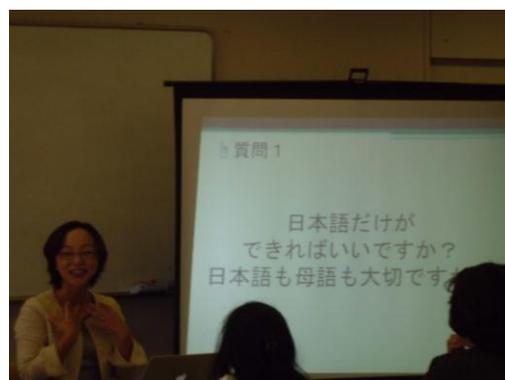
共催：西尾市

後援：西尾市教育委員会

▼外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備（024年度文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム）

講座	日時	講座名	講師
第1回	8月8日（水） 17:30～19:30 福祉センター 4階 第6集客室	受講生ニーズ分析 ケース会議とは	佐々木千里氏（社会福祉士、京都市教育委員会等 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー 立命館大学、名城学院大学非常勤講師）
第2回	9月27日（木） 15:00～17:00 市役所55AHO会議室	ケース会議①	佐々木千里氏（社会福祉士、京都市教育委員会等 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー 立命館大学、名城学院大学非常勤講師）
第3回	10月21日（日） 10:00～12:00 一般公開 福祉センター 3階 第4、5集客室	多文化多言語環境に育つ子ども のことばとアイデンティティ	櫻井千穂氏（大阪大学、奈良教育大学、 専修大学非常勤講師）
第4回	11月29日（木） 15:00～17:00 市役所41会議室	ケース会議②	佐々木千里氏（社会福祉士、京都市教育委員会等 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー 立命館大学、名城学院大学非常勤講師）
第5回	12月13日（木） 15:00～17:00 市役所55AHO会議室	西尾市多文化子育て支援事業 - プレスクールプログラムを 中心に -	川上貴美恵（中野区保育園、 西尾市プレスクール 外国人児童コーディネーター）
第6回	1月24日（木） 15:00～17:00 市役所22A併会議室	ケース会議③	佐々木千里氏（社会福祉士、京都市教育委員会等 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー 立命館大学、名城学院大学非常勤講師）

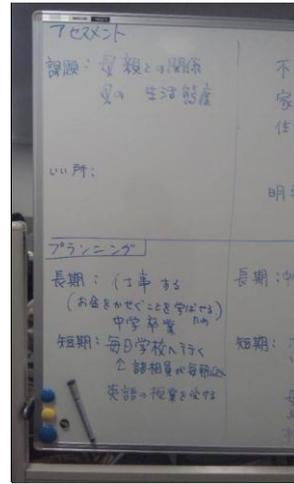
(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



第3回講座「多文化多言語環境に育つ子どものことばとアイデンティティ」



ケース会議(グループでワークショップ)



アセスメント・長期目標・短期目標

(9) 取組の目標の達成状況・成果

アンケート結果をみると、

「機関の役割、機能を知り、その上で連携をはかっていくことがとても大事であるということがわかりました。」

「同じ問題をチームワークで一緒に取り組むことによってつながりができた。

協力していくと、よい方法や情報、問題への対応の糸口がみつかり、役割分担や目標設定がしっかりとよいものができるなど学んだ。」

「アセスメントシートの活用で、客観的事実が理解できるということを学びました。」

などと記入してくれた。また同じ組織内でケース会議を開いて実践してみたという報告もあった。

「母語の大切さ、母語を確立することがいかに重要なことわかりました。教育現場のみならず、妊娠時から外国人の方と関わる保健部門が言語の習得について少しでも支援ができれば、外国人の子どもの将来も少しは明るくなるのだと思った。」という保健師から感想も得られた。

講師によると、保護者たちの育児の相談相手が保育園の先生くらいで、主な情報源も幼稚園・保育園からのおたよりらしい。『西尾市の子育てガイドブック』を多言語化、母語の大切さについても説明した多文化多言語家庭用冊子も添付して西尾市として配布するようになったことは大きな成果だろう。

(10) 改善点について

市役所の協力を得たため、成果もうまれたが、業務時間内ということに配慮したため、研修が2時間という短い時間で1コマをこなさなければならず、受講生の方も時間的余裕がほしかったようだ。市役所以外で勤務の人にはなかなか来にくい時間設定となってしまった。個人情報保護に関することなので、同一機関内でのみ行われるワークショップを実施していくほうがいいたろう。

○取組2:「外国にルーツをもつ子どもの親のきもち」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国にルーツをもつ子どもの親たちの気持ちに耳を傾ける。日本人大学生と活動を通して、親自

身も自分を見つめなおし、自己肯定感を高め、より日本での生活に前向きになってもらう機会とする。

(2) 取組内容

二日間にかけて一人一作品を作り上げる。一日目は大学生がいろいろなテーマについて外国人保護者から話を聞きだす。ストーリーをつくり、それにあった挿絵、写真を考える。二日目は用意した画像やナレーションををパソコンに取り込んでムービーメーカーで作品をしあげる。

(3) 対象者

西尾市住民外国人保護者

(4) 参加者の募集方法

多文化共生教室きぼうで学ぶ子どもの保護者などを中心にチラシを配る。

(5) 参加者の総数 11 人

(出身・国籍別内訳 日本人 6人, ブラジル人 2人, ペルー人 1人, ベトナム人 1人, 中国人 1人)

(6) 開催時間数(回数) 13 時間 (全 2 回)

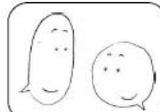
(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名
1	平成25年2月17日 9:00~17:00	7時間	福祉センター	11人	日本人(6人),ブラジル人(2人),ペルー人(1人),ベトナム人(1人),中国人(1人)	フォトストーリーワークショップを通して、子どもだけでなく親の気持ちも知る①	アイスブレイキングをしながら、少しずつ打ち解けていろいろなテーマについて話を引き出す。きらりと光る部分をもっと広げる。ストーリーを作る。	1名	小島 祥美
2	平成25年2月24日 9:00~16:00	6時間	福祉センター	11人	日本人(6人),ブラジル人(2人),ペルー人(1人),ベトナム人(1人),中国人(1人)	フォトストーリーワークショップを通して、子どもだけでなく親の気持ちも知る②	ストーリーに合わせて、画像やイラストを用意する。パソコンを使ってムービーメーカーに入れていく。録音をする。	1名	小島 祥美

<チラシ>

フォトストーリー (おとなバージョン) in にしお





パソコンに がぞう(foto)を とりこんで、
こえを ろくおんして、2ぶん かんのかくひんをつくります。

2013年3月17日(日) 13:00~
ふくしセンター で みんなで みます。



これは にしおに すむ がいくじんの ことを にほんじんのみなさんに してもらうためです。



つごうの いい日に Oを つけてね。

日時:

() 2013年1月27日(日) 9:00 ~ 17:00

() 2013年2月17日(日) 9:00 ~ 17:00

() 2013年2月24日(日) 9:00 ~ 17:00

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

「これは困った!」「10年後の私」「私の宝物」「自慢の我が家のご飯」「1年で一番大切な日」などといったテーマについていろいろ質問をして話を聞きだす。話すときにきらりと輝く笑顔が見えたらそこをどんどん聞いていく。それからストーリーに仕上げ、それに合わせたイラストや画像を用意する。ナレーションも吹き込んで、タイトルをつけて出来上がり。



コミュニケーションが大事というので
コミュニケーションの様子をパチリ。



自転車に乗っていたら警察に呼び止め
られた様子を再現。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

実際に参加した外国人保護者の方々はたくさん話をしてくれた。いろんな思いを熱く語ってくれた。満足した顔や「自分にできることがあったら、なんでもいってほしい」と言ってくれた。参加した大学生も「そんなことを考えていたんだあ」と感慨深い様子だった。

(10) 改善点について

参加したいと言っていた保護者はたくさんいたが、実際集まったのは半分以下であった。事前に予告してもなかなか予定どおりにはできないところがある。しかし、参加した人たちの口コミで他の人もやりたいといってくるようになることを期待し、今後もこのワークショップを行っていききたい。

○取組3:実践報告会「外国にルーツをもつ子どもを真ん中に～西尾市での医療福祉教育の連携の試み～」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国にルーツをもつ子ども、保護者は同じ西尾市民である、特に子どもは社会の宝である。しかし、彼らはことばや習慣などの違い、家庭の事情によりさまざまな課題に直面することも多い。外国にルーツをもつこどもの未来を見つめ、彼らの現状をしっかりと理解して、彼らとともに力を合わせて課題克服に取り組んできた。西尾市やいろいろな地域の方々との協力体制ができ、支えの輪が広がり始めた。これまでの取り組みの成果と課題、今後の展望を報告する。

(2) 取組内容

これまでHAHAHAで取り組んできた研修のポイント:「多文化多言語環境の子どものことばとアイデンティティを育てることについて」、「フォトストーリーのワークショップ活動を通して子どもも大人も自尊感情が大切ということ」、「また実際に彼らの声に耳を傾ける」、「育児真っ最中の保護者たちの育児に関する情報源は意外に狭いという現状」、「情報収集、つながること、強みを生かすこと、チームワークでできること」などの講演をきく。そして、受講生のコメントもきく。

(3) 対象者

一般市民、市役所職員、教育・医療・福祉関係者、学生など

(4) 参加者の募集方法

チラシ配布

(5) 参加者の総数 51 人

(出身・国籍別内訳 日本 41人, ブラジル 4人, ベトナム 6人)

(6) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	平成25年3月17日 13:00~16:00	3時間	福祉センター	51人	日本人(41人)、ブラジル人(4人)、ベトナム人(6人)	西尾市の取組を知る、つながることで生まれた成果報告	これまでのHAHAHA研修のふりかえり、受講生の実践報告、保健師として今後できることを報告	4名	小島 祥美 佐々木 千里 櫻井 千穂 川上 貴美恵	4名	加藤 和幸 杉田 久美子 兼子 明 尾崎 健治

<チラシ>

平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム

外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備

取組3 実践報告会



外国にルーツをもつ子どもを真ん中に
～西尾市での医療福祉教育の連携の試み～

外国にルーツのある子ども、そして保護者や家族は、私たちの仲間であり、西尾市を支える大切な市民です。とくに子どもは社会の宝です。しかし、彼らは言葉や習慣などの違いや、家族の事情でさまざまな課題に直面することも多く、「困り感」を抱えて暮らしています。

HAHAHAは、外国にルーツのある子どもの未来を見つめ、一人でも多くの人が彼らの現状をしっかりと理解して、彼らとともに力を合わせて課題克服に取り組んでいけるよう活動してきました。

おかげさまで、西尾市をはじめ多くの方々との協力体制ができ、支え合いの輪が広がりました。今回は、これまでの取り組みの成果と課題、今後の展望を報告したいと思います。

▼外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備

(平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム)

タイムスケジュール	内 容	報告者(所属)
13:00~13:03	開会のことば	
13:03~13:25	HAHAHAのこれまでのふりかえり	HAHAHA 代表菊池寛子
13:25~13:40	受講生の報告	加藤和幸氏(堺市立萬福小学校・龍川小学校)
13:40~13:55	講師のことば	櫻井千穂氏(大阪大学・奈良教育大学)
13:55~14:15	保護者の声を聞く	(作品上映)
14:15~14:35	作成に関わった人のことば	小島祥美氏と学生たち(愛知淑徳大学)
14:35~14:50	ケース会議参加者の報告	杉田久美子氏(福祉部福祉課主査・保健師)
14:50~15:05	多言語多文化環境のこどものための育児マニュアルの必要性について	川上貴美恵氏(外国人児童コーディネーター)
15:05~15:20	講師のことば	佐々木千里氏(社会福祉士・SDRスーパーバイザー)
15:20~15:50	質疑応答	
15:50~15:55	学校教育課指導主事のことば	兼子 明氏
15:55~16:00	市民協働課課長のことば	尾崎 健治氏
16:00	閉会のことば	

日時：平成25年3月17日(日) 13:00~16:00
 場所：総合福祉センター4階ふれあいホール
 (西尾市花ノ木町2丁目1番地 TEL:0563-56-5900)
 対象：市役所各課職員、通訳、医療・福祉・教育関係者、学生、一般など
 費用：なし 定員：100名ほど
 主催：HAHAHA (代表 菊池寛子 西尾市早期適応教室指導員)
 電話 080-2626-1056
 共催：西尾市
 後援：西尾市教育委員会

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



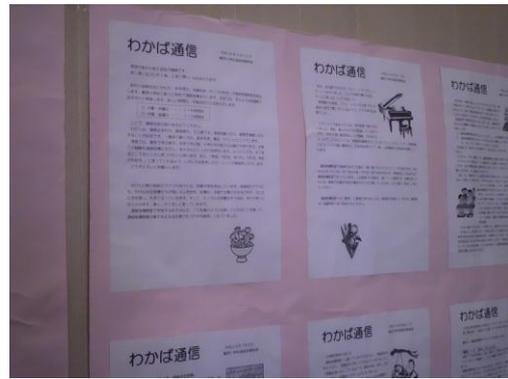
講演をきいている様子



質疑応答



実践した教材を展示



受講生が作った外国にルーツをもつ
家庭用通信の展示

(9) 取組の目標の達成状況・成果

これまで研修に来ていなかった方々も多く参加していた。地元の新聞社も来てくれた。西尾市の医療福祉教育の連携の成果として、「西尾市の子育てガイドブック」の多言語版、多文化多言語家庭用の内容も盛り込んで配布できること、「消防署でやさしい日本語講座」を来年度できることを伝えることができた。

(10) 改善点について

それぞれの講師の先生の持ち時間が短く、もっと聞きたいという声が多くなかった。また、改めて話を聞ける機会を設けたい。

○取組4:「二言語の対話型段階的読み学習の実践」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日常的会話力から学習言語能力の基礎となる読書力を焦点にし、書きの力の育成にもつなげていく。その実践を現場に浸透させる。

(2) 取組内容

段階的読みの学習の概論を聞いてから、実践を重ね、講師のコメントをもらいながらスキルを身につけていく。個別プログラムの作成。

(3) 対象者

教職員、指導員

(4) 参加者の募集方法

チラシ配布

(5) 参加者の総数 27 人

(出身・国籍別内訳 日本 25人, ブラジル 2人)

(6) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 5 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名
1	平成24年8月18日 13:00~16:00	3時間	福祉センター	4人	日本人(4人)	ニーズ分析 実践報告	受講生のニーズ分析、2年連続HAAAAHA研修を受け、実践している人の報告を聞く。	1名	加藤 和幸
2	平成24年8月26日 9:30~12:30	3時間	福祉センター	15人	日本人(13人)、 ブラジル人(2人)	二言語の対話型段階的読み学習の実践①	概論を学ぶ。実践していただくが宿題と課された。	1名	櫻井 千穂
3	平成24年9月16日 9:30~12:30	3時間	福祉センター	13人	日本人(13人)	二言語の対話型段階的読み学習の実践①	各受講生の実践報告、実践をみんなで共有する。	1名	櫻井 千穂
4	平成24年10月 7日 9:30~12:30	3時間	福祉センター	11人	日本人(9人)、 ブラジル人(2人)	二言語の対話型段階的読み学習の実践①	録画されたある受講生の実践を見ながら学ぶ。個別プログラムの作成について学ぶ。	1名	櫻井 千穂
5	平成24年11月 4日 9:30~12:30	3時間	福祉センター	11人	日本人(9人)、 ブラジル人(2人)	二言語の対話型段階的読み学習の実践①	年少児の読書習慣や読書力が子どもの将来の理解力に大きく影響することを改めて気づく。年齢別読書力の各ステージを確認する。	1名	櫻井 千穂

<チラシ>

平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育委員会事業地域日本語教育実践プログラム

外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備
取組4 指導者スキルアップ研修

二言語の対話型段階的読み学習の実践

外国にルーツをもつ子どもたちの日本語での学力向上のためには、書かれたものに触れる機会を増やし、「読書力」をアップさせることが必要不可欠であると言われています。その「読書力」を、母語と日本語で、子どもたちの自尊感情を育みながら、無理なく、段階的に伸ばしていく学習方法について勉強します。

実践報告者：加藤和幸氏（聴喃市教諭）
講師：櫻井千穂氏（専修大学）
1講座3時間×4回シリーズ

今回は初回で、
より現場に即した形で、
実践的なものを
ご指導いただけます。

～講師櫻井氏の紹介～

外国にルーツのある子どもたちの「読書力」をいかに伸ばすかというテーマでの研究を精力的に行うかたわら、文部科学省委託「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」の研究推進委員で、読書力評価・測定ツールの開発も担当されています。

日時：平成24年8月～平成24年12月（土） 計5回シリーズ
場所：総合福祉センター（西尾市花ノ木町2丁目1番地）
対象：教職員、指導員
費用：なし 定員：30名ほど
主催：HAAAAHA（代表 菊池寛子 西尾市早期通訳教室指導員）
電話：080-2626-1056
後援：西尾市教育委員会

▼外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備 (024年度文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム) 取組4 指導者スキルアップ講座

講座	日時	講座名	講師
第1回	8月18日(土) 13:00 ～16:00 福祉センター 2階 第3集会室	実践報告 受講生ニーズ分析	加藤和幸氏(聴喃市教諭)
第2回	8月26日(日) 9:30 ～12:30 福祉センター 3階 第4、6集会室	二言語の対話型段階的読み 学習の実践①	櫻井千穂氏(大阪大学、奈良教育大学、 専修大学非常勤講師)
第3回	9月16日(日) 9:30 ～12:30 福祉センター 3階 第4、6集会室	二言語の対話型段階的読み 学習の実践②	櫻井千穂氏(大阪大学、奈良教育大学、 専修大学非常勤講師)
第4回	10月 7日(日) 9:30 ～12:30 福祉センター 3階 第4、6集会室	二言語の対話型段階的読み 学習の実践③	櫻井千穂氏(大阪大学、奈良教育大学、 専修大学非常勤講師)
第5回	11月 4日(日) 9:30 ～12:30 福祉センター 3階 第4、6集会室	二言語の対話型段階的読み 学習の実践④	櫻井千穂氏(大阪大学、奈良教育大学、 専修大学非常勤講師)

平成25年3月17日(日)13時～16時 於：総合福祉センター(予定)
子どもを中心とする「生活者としての外国人」のための西尾市のこれまでの取組、連携・協力体制の実践報告会(一般公開)を行います[取組3]。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

昨年度まで研修を受講していた教員の実践報告を聞く。読書力を伸ばすために、本とのかかわり、保護者とのかかわり、校内の連携の実践報告を聞く。

概論で学んだ後は現場でそれぞれ実践を繰り返し、感想を伝え合う。また様子を録画した受講生の取り組みをみんなで見て学びあった。

隣の部屋で実践するのをPCカメラを使ってスクリーンに映し出し、みんなで見ながら学んだ。



「本好きにさせる」ことを学ぶ(概論)



実践発表の様子

(9) 取組の目標の達成状況・成果

個別プログラムを作成してきた受講生もあり、アンケートにも指導に悩んでいた指導者の喜びの書かれていた。

(10) 改善点について

西尾市内の教諭の参加が少ない。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

外国にルーツをもつ子どもの困り感、家庭の困り感、支援者の困り感を知り、その改善のために、関係機関と連携しながら環境整備をする。

(2) 事業目的の達成状況

外国にルーツをもつ子どもの言語面の困り感、多文化多言語環境に育つ困り感を講座から学び、事例検討から家庭の困り感を知り、育児に対して相談できる相手が少ない現状を知り、ケース会議の中で、西尾市が出している「子育てガイドブック 西尾っこ」の多言語版、多文化多言語家庭用別冊添付で配布できることになった。

(3) 地域における事業の効果、成果

いろいろな国にルーツをもつ人たちが、西尾市に定住化している現状がまだまだ知られていないが、日本生まれの子どもたちも増えている。会話はできても深く考えることできない子どもも少なくない。そんな現状を改善するために、妊娠しているときから保護者へいろいろな情報を提供できるきっかけができた。まずは、子育てガイドブックを翻訳し、今後その内容を浸透させるように活動を続けていく。

(4) 改善点, 今後の課題について

i 現状

つながりの輪は一人、一人ゆっくり広がっていく。急速には広まっていけない。

ii 今後の課題

まずは、育児の分野と防災の分野から生活者としての外国人のためにできることを地域の人たちとつながり、助けられながら環境整備をしていく。例えば、育児サロンに外国人保護者を連れて行き、悩みを聞いてもらう。相談員にも外国人の悩みを知り、対応の仕方を少しずつ学んでいってもらう。また、消防署の方々に「やさしい日本語」を体験してもらう。

iii 今後の活動予定

育児、防災分野からまた別の分野に広げて、それぞれの地域の専門家が外国人住民の困り感に寄り添えるように活動していく。今後はHAHAHAが主として活動するのではなく、他の市民団体、関係機関が主に活動できるように、つなぎとして後方支援をしていく。

(5) その他参考資料

<アンケート集計 取組1~4 抜粋>

- ・加害者はどこかで被害者。
- ・子どもを中心に考える、ということが本当に大切で、それがすべての環境につながるということが分かりました。子どもと関わる仕事なので、毎日心がけたいと思います。
- ・過去の教育現場（佐々木先生）で、教員は「経験+勘+思い」で動いていた。それにSSW視点を加えて計画性を持つことが大切というのが印象的でした。
- ・細かい情報を集めることが重要だと思いました。一人ひとり尊重すること。
- ・情報収集とその整理方法
- ・子どもをとりまく環境に面ではなく、過去と未来があること。
- ・ストレングスを大事にして、それをもとに支援する人（達）が自信、自尊心を育てていくことができるようになった。
- ・アセスメント、プランニングをすることで、今どう支援していくのが一番良いのかが本当にはっきりと見ることができました。様々な環境が関係していく中で、本人にどう影響するのか、どう解決できるのかを深く考えることができました。
- ・情報を多角的に分析し、処理すること
- ・アセスメント、プランニング等、4グループとも違うが答えはないと講師が言い切ったこと。やっぱり当たり前のことではあるが、ワリワリ議論することが大切であり、その時間を共有すること、グループで取り組むことを再確認しました。
- ・機関の役割、機能を知り、その上で連携をはかっていくことがとても大事であるということがわかりました。
- ・同じ問題をチームワークで一緒に取り組むことによってつながりができた。協力していくと、よい方法や情報、問題への対応の糸口がみつきり、役割分担や目標設定がしっかりとよいものができるなど学んだ。
- ・母語の大切さです。母語を確立することがいかに重要なことかわかりました。教育現場のみならず、妊娠時から外国人の方と関わる保健部門が言語の習得について少しでも支援ができれば、

外国人の子どもの将来も少しは明るくなるのだと思った。

- 質の良い言語環境が大切。どの言語がよいかではなく。。。。
- こどもたちの言語環境を整える上で、読書を進めることの重要性を再認識しました。
- 母語の尊重
- 母語の大切さを妊婦さんの時より知らせていくための方法を話し合うことができてよかった。
- 子育て、親育ての大切さを学びました。